
ひとりだけの空 ふたりだけの空

流月 蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとりだけの空 ふたりだけの空

【Nコード】

N 8 4 5 2 J

【作者名】

流月 蒼

【あらすじ】

なにをするわけでもなく、ただ平凡な毎日をおくっていた主人公、
風村 悠と、こちらは学校に行きたがらないヒロイン、祈野 優菜
行きたがらないのには理由があった。

過去のトラウマから優菜を連れ出すことができるのか！？

神社での出会いが悠の奮闘の始まりだった。

（前書き）

初めて書くのであまり自信ないですが
よろしくお願いいたします。
できるだけ感想をお願いします。

「奇跡」は絶対にある――
そんな戯れ言を言っていた「女の子^{ひと}」がいた…。

俺は「奇跡」なんて信じない。

あるのは偶然と必然、そして何らかの要素だけ。
そうしか俺は考えたことが無かったんだ。

だけど…そんな俺の考えを変えてくれたのは…。
戯れ言を言っていた「彼女^{ひと}」だった。

ある年のある冬のある日、降りしきる雨の中、俺達はキスをした。

「寒くなつたな」

季節は秋、そろそろ長袖が恋しくなってくるころだ

とは言えいつも長袖のワイシャツの袖を捲っていたのを戻すだけだ。

「って俺には関係ねえか」

いつも通りにボーツとしながら家路に着く。

だけど今日は何となく遠回りしたくなった。

「こんな道あつたのか」

そこは丘の上にある神社に続く道だった。

「ちよつくら、行つてみつか」

ホントにちよつとのつもりだったんですよ？

ここからが俺の物語の始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8452j/>

ひとりだけの空 ふたりだけの空

2010年10月9日19時00分発行